



## 社員同士のコミュニケーションを円滑にし、 地域で愛される企業づくりを実践

### 株式会社 多慶屋

#### 会社概要

設立：1951年  
所在地：東京都台東区台東 4-33-2  
資本金：5000万円  
従業員数：182名



食品・日用品・くすり・化粧品・小型家電・ジュエリー・時計・ブランド衣料・服飾品・家具・ベッド・オーダーカーテン・リフォーム等あらゆる商品を取り扱っている総合ディスカウントストアです。地域の皆様から愛され、喜びを生み出すサービスをご提供しています。

社員全員が力を合わせて  
笑顔といいね！があふれる会社へ



代表取締役社長  
竹谷 宗二

楽しい・嬉しい・  
ありがとうの循環  
で、笑顔と喜びを  
生み出せる会社で  
あるために、関わ  
る全ての皆様とと  
もに歩んでいきま  
す。

多くの売り場と、さまざまな働き方が混在している社内。「社内の情報共有を見直さなければ、明るい未来は決して訪れない」と考えた株式会社多慶屋は、コミュニケーションを円滑に行うための改善策を講じました。どのような取り組みに注力し、変化が表れたのでしょうか。人事総務グループの河田マネージャーにお話を伺いました。

### この記事のポイント

- ①HR テックの導入で社員全員が顔見知り
- ②社員おすすめ商品が社内で盛り上がり、売り場の人気商品へ
- ③公式キャラクターが、地域で愛される会社としての顔に

## コミュニケーションツールの導入で社内情報を共有

### どのように情報共有を行っているのでしょうか？

コミュニケーションのためのデジタルツールを導入しました。タイムラインにキャンペーンの案内や運用などを投稿し、大事な情報も瞬時に共有ができるようになりました。更に個人間やグループでのチャット機能もあり、急な欠員やトラブルが生じた時すぐに連絡を取り合いフォローできる体制が整っています。



人事総務グループ  
河田 光司マネージャー

### 導入した背景について教えてください。



営業時間は9時～21時、正社員もいればパートタイマーもいます。小売業である多慶屋は、多くの人々の力を借りなければ営業ができません。ところが、会社からのメッセージがなかなか全員に伝わらないと感じていました。当時は会社からの情報もメールや個人のSNSアプリを通じて段階的に伝える他手段が有りませんでした。そのため、どうしても伝言ゲームのようになってしまい、本来伝えたいことが十分に伝わらない状況でした。そんなときにツールと出会いこれだと直感し、すぐに導入へと動き始めました。

## どのような効果を感じていますか？

上下関係や同僚との交流など、スタッフ同士が関係性を構築しやすくなっています。「おすすめ商品」を会社が一方的に発信して社員に見てもらうことも大切ですが、売り場スタッフがツールを使って発信・共有することで、社員が社内に興味を持つようになりました。スタッフおすすめの商品が紹介され、社内でプチバズりを起こすことや、埋もれていた商品があつという間に大人気グッズになることもあります。その他、ツールを使って社員間で「サクスメッセージ」というものを贈り合っています。たとえ些細なことでも、助かったことやすごい！と思ったことを本人に伝えるだけでなく、周囲にシェアすることで、「ありがとうの輪」を広げ合っています。

このように業務の見える化ができ、お互いの状況を把握し助け合うことで、業務全体の効率化が図れています。社員同士の交流が深まる上に、お客様に自社商品を心からお勧めできるので、いいこと尽くしだと改めて感じています。



## HR テックの活用で得られる効果

HR テックとは、デジタル技術を用いて人事が抱える課題を解決に導くサービスや技術のことです。HR テックの活用で、**社内のコミュニケーションの円滑化や、エンゲージメントを高める効果が期待できます。**



## 公式キャラクターで地元にも愛される企業へ

### 公式キャラクターがいるそうですね？

「たけばん」という公式キャラクターがいます。催事を企画したときに若手社員発案のイベント計画があり、キャラクターを作ろうと盛り上がったことがきっかけです。社員の1人が手始めにイラストを描き、チームでパンダの設定を考案しました。結果、そのイベントは大盛況でした。イベント終了後も「たけばん」は社員からもお客様からも愛されるようになり、今でも公式キャラクターとして活躍しています。

## 多慶屋だからできる地域交流を

地元にも昔から愛されている多慶屋を社内でも再認識し、さらに貢献したいという思いで、さまざまな企画を考案しています。「たけばん」のぬいぐるみを地域の社会福祉団体に寄付したときはとても喜んでもらえて、地域に認められそして愛されていることを改めて感じる事ができました。他にも、上野エリアの商店街の理事を務めたり、地域の子どもたちと一緒にモノづくりをしたりと、多慶屋が全国チェーンではないからこそその存在意義と価値を見出していきたいです。地域に貢献できればという強い思いをもちながら、地域の皆様と共に成長していける会社でいられるように、努力を続けていきたいと考えています。



# 人材育成と企業成長へ向けて

社内の環境整備については、まだまだやりたいことがたくさんあります。その一つは安否確認です。コロナ禍のときに社員と連絡がつかないことがあり、とても心配しました。いつ何が起こるかわからない昨今、安否確認をオンライン上で行えれば、会社が社員を守ることができると考えました。また現在社内では、データを理解しやすい形に可視化し、可視化されたデータを共有するBI（ビジネスインテリジェンス）ツールを扱えるスタッフが育っています。その輪と質を広げていくことで、HRの分野に限らず営業力を高める分析・検証が出来る体制を一層整え、経営基盤を盤石にしていきたいですね。



## Message

### コミュニケーションの活性化で働きやすい会社づくり

「人」を大切にすると一言と言っても色々なやり方があると思います。多慶屋は、営業時間が長く勤務時間がさまざまな人が多くいる状況で、まず一番に「会社の声を社員全員に届ける」ことが優先されるべき事項だと考えました。実際にツールを導入したことでコミュニケーションが活性化し、社員満足も高くなっていると実感しています。

大切なのは会社に必要なことが何かを見極めること、そして社員の声に耳を傾けることだと思います。経営陣が行動することで、会社も社員も大きな一歩を踏み出せると考えています。今後も多慶屋は地域の皆様と社員に愛される会社へと進んでいきます。